

# 紛争後シエラレオネに見る国家とインフォーマルな経済活動

## 国家に接近するバイクタクシー業と全国バイクタクシー協会

岡野英之（日本学術振興会・大阪大学大学院国際公共政策研究科）

本発表では、紛争後のシエラレオネにおいて隆盛したバイクタクシー・ビジネスを考察する。特に、インフォーマルセクターとして始まった本ビジネスが、政府機構との間に一定の関係を結ぶようになるプロセスを考察することによって、近代国家による統治がいかに変容し続けているのかを論じる。

近年、人類学での国家論では、エスノグラフィックな現地調査から得られたローカルな政治の記述に基づいて、国家を論じる研究が多く見られる(Das and Pool 2004 [eds.]; Lund [ed.] 2007; Roitman 2004; Utas [ed.])。こうした国家論での中央政府とは、強大な影響力を有しながらも、それに抗する諸勢力を完全に律することができない主体である。Hagmann and Péclard (2011)によると、政府の諸機関はそれぞれ別個の統治権威を有しているとする。また、政府の諸機関だけではなく、非「政府」でありながらも統治権威を有した社会勢力はあまたに存在する。「国家」とは、政府諸機関および統治権威を有する社会勢力との協力関係のネットワークを総体として捉えたものに過ぎないという。

国家の中では諸勢力が影響力を拡大しようと互いに交渉や妥協を繰り返している。各勢力が協力関係を結ぶ際に権力の維持・拡大を図るために、協力関係の構築には権力闘争の側面がどうしても伴う。

Lundによると、内戦で混乱し、国家としての体をなしていない失敗国家(failed state)では、統治権威を有するさまざまな社会勢力が存在するものの、中央政府と協力関係を結んでいないという(2007)。紛争後は、中央政府がそうした社会勢力と協力関係を作り上げるプロセスでもある。ゆえに紛争後という状況では、社会勢力および政府諸機関の交渉や権力闘争が激しく展開されていると考えられる。では、中央政府が諸勢力と協力関係を結ぶプロセスでは、いかなる主体がいかなる手法を用いて権力を拡大しようとするのか。本発表ではこの間にアプローチするために、紛争後のシエラレオネで新しく台頭したビジネス、バイクタクシー業に注目する。特に、その業界団体である「全国バイクタクシー協会」の成立プロセスを考察することで、ローカルな利益団体が中央政府と接近する中で権力を拡大するプロセスやその手法を描く。

バイクタクシーは、2000年頃からアフリカ各地で見られるようになった新しいビジネスである。シエラレオネでは紛争直後で社会が流動化している時期にバイクタクシーが隆盛したこともあり、国家とバイクタ

クシー業界は急速に結びつくことになった。当初、バイクタクシーは誰でも参入できるビジネスであった。いわば、インフォーマルセクターの一部門だったといえる。しかし、徐々に業界団体を確立し、2012年には全国バイクタクシー協会という法的に認可された公益法人を設立した。協会の役員たちは、バイクタクシー業の拡大のために法改正を陳情したり、バイクタクシー業界内のルール作りをしたりしている。全国バイクタクシー協会は、バイクタクシー業を統治し、その権力のシェアを拡大しようとする動きの一定の帰結だといえる。

全国バイクタクシー協会が作られるまでのプロセスを見ると、ビジネスのために作られた組織が公益性を帯びた活動を利用することによって統治権威を獲得し、権力をさらに拡大するプロセスだといえる。バイクタクシー・ビジネスが始まった当初、各都市部で独自にバイクタクシー組合が作られた。しかし、その実態はライダーから売り上げを回収する「元締め組織」に過ぎなかった。しかし、新参のライダーが増加する中、こうした組合は変容を迫られる。各地のバイクタクシー組合は、自らの息がかかっていないライダーを会員として吸収するため、公益事業を開始する。ライダーに対して講習を実施したり、ライダーのための保険を作ったり、警察官との折衝を通して町の交通ルール作りしたりするなどして公益団体としての性格を強めていった。こうした公共事業を行うことにより、各組合は元締め組織から各都市を統括するバイクタクシーの業界団体となった。かつて援助団体で仕事をしてきたライダーたちは、公益性を帯びた組合の運営の担い手となった。彼らは紛争直後の平和構築ブームの中、援助機関に雇用されていた。しかし、平和構築ブームが去ると失業することになった。彼らはずりあえずの仕事としてバイクタクシーのライダーとなった。こうしたライダーはバイクタクシー組合のスタッフとなり、活動を拡大した。援助機関からの助成金を獲得し、さらに組合の公益活動を広げた。公益事業を展開する中で各地の組合との連携も深まり、シエラレオネ全国をまとめた業界団体が構築されることになった。その結果、出来たのが全国バイクタクシー協会である。

このプロセスは以下のように解釈できる。バイクタクシー協会(および、その前身のバイクタクシー組合)は、公益性を帯びた活動を通して統治権威を帯び、「国家」に参入した。そして、公益性を帯びた活動を用いて資金を獲得し、さらに権力を手にする。このことは、国家の統治が、公益性を得た組織の参入によって変容を迫られていることを示している。

キーワード インフォーマル・セクター、国家、シエラレオネ、バイクタクシー